



平城宮跡でボランティア活動をしている私たちの会報紙です

天平のひろば

NPO法人平城宮跡サポートネットワーク（NPO平城宮跡）

〒630-8577 奈良市二条町 2-9-1 奈良文化財研究所内

2022 年 4 月発行

82 号

☎/Fax 0742-34-7713

e-mail : npoheijyou@yahoo.co.jp

http://www.heijyonet.nara.jp

大極門（第一次大極殿院南門） が完成しました

平成 29 年 11 月から進めてきました復原整備工事が完成し、令和 4 年 3 月 19 日に完成式典を行いました。新型コロナウイルス感染症対策のため、80 名ほどの出席者による開催となりましたが、滞りなく執り行うことができました。あらたに門の名称を大極門（だいごくもん）とした扁額の除幕を行い、舞楽が奉納され、衛士によるかけ声とともに門が開きました。

国土交通省としてはじめての復原整備であり、奈良文化財研究所や文化庁等のご支援で、学術的な知見に基づき、往時の姿の復原に取り組みました。伝統的な工法や材料などが用いられ、古代建築の伝統技能を継承する様々な分野の工匠により施工されました。その工事現場をなるべく多くの人にご覧いただく取組も行いました。完成後も、供用した大極門を来園者により楽しんでご利用いただけるように努めて参ります。

4 月からは隣の東楼復原整備工事に取ります。実物大の姿を描いた素屋根のシートを南側に張っていますが、大極門で得た経験等をもとに国営歴史公園の事業として、復原整備を引き続き進めていきます。



「大極門」扁額除幕後の舞楽奉納



開門した大極門



着手する東楼整備工事の実物大のイメージ
(国営飛鳥歴史公園事務所平城分室 出口義治)

ガイド研修を実施

1 月 15 日 いざない館で当法人の 70 名がガイド研修を受講。第一次大極殿院の復原研究を箱崎和久奈文研究開発調査部長、南門建築工事の特徴と解説のポイントを中村 孝飛鳥歴史公園事務所所長から説明の後、南門、復原事業情報館に移動し現説を実施しました。

(編集部)



いざない館でガイド研修

市 大 樹

(大阪大学大学院文学研究科教授)



1月23日、第43回
記念講演会は85名が
受講。

平城天皇は桓武天皇
の長男として生まれ、
安殿親王の時代に式家
藤原縄主（ただぬし）

と薬子の長女が輿入れしたとき母薬子が東宮御所に同行。しかし安殿親王は「妃にほしい」と願った娘よりその母との関係となった。これに桓武天皇は激怒するが桓武帝も親王時代に義母と関係を持った過去があり、桓武帝が即位できた背景には、薬子の藤原式家の力が大きく複雑な事情が存在していた。こうして薬子はその兄の藤原仲成とともに宮中で権勢をふるうようになる。平城天皇即位後、当初は精力的に取り組み、膨大な経費を使う平安京の造営と蝦夷討伐を縮小、さらに大規模な官司統廃合、無駄な年中行事を中止した。また、中、下級役人の待遇改善も行い政治の立て直しと民心の安定に務めた。特徴的な治世として、「観察使」を設置。これは国司、郡司の政治状況を掌握し地方の未収租税把握の強化を目的としたもの。この制度は律令制ではなく令外（りょうげ）の官と呼ばれたが弘仁元年（810年）嵯峨天皇により廃止された。平城天皇が発病、在位わずか3年で皇太弟の神野親王（嵯峨天皇）に譲位し、上皇として表舞台から退いた。

同年4月13日に嵯峨天皇が即位、平城天皇は上皇となり失地回復すると再び上皇として、勅を出し始め、天皇と上皇との「二所朝廷」と呼ばれる混乱状態となり、平城京に還都する詔勅をめぐり両者が激突。これが「平城太政上皇の変」を呼ばれるもの。結局、嵯峨天皇側が勝利し、平城上皇は剃髪し、「萱の御所」と称する屋敷（現在の不退寺）に謹慎。51歳で崩御。平城上皇の埋葬地は楊梅陵〔市庭古墳〕に治定されている。諡号の平城天皇は、深い愛着を持った平城京に因むもので奈良帝とも呼ばれた。

（編集部）

あちこち見て歩き ⑥ 「興善寺」

ならまちの元興寺から少し南東方向に「浄土宗・法輪山興善寺」またの名を「突き抜けさん」と言うお寺があり、十輪院の通りから公納堂町の通り迄南北に通り返すことができます。元々元興寺の子院で十輪院と共に「奥之院」・「奥之坊」と呼ばれ「一光三尊形式の石仏」を信仰していましたが、慶誉上人により天正17年（1589年）本堂が建立され浄土宗興善寺として独立しました。



その折快慶作と伝えられる木造の阿弥陀如来像を東山田原の阿弥陀堂からお迎えました。現在石仏は納骨堂の本尊として祀られて

て居ます。昭和37年阿弥陀如来像の胎内から法然上人の御真筆をはじめとする15片の書状が発見されました。

書状は「興善寺文書」と呼ばれ、今日の研究では不可欠の第一級の資料となっています。まさに昭和の大発見でした。この興善寺文書は御本尊阿弥陀如来像を造立した折の結縁者の名前が1500名以上も背紙に記された「念仏結縁交名（ねんぶつけちえんきょうみょう）」というもので、その表紙に全て正行房宛ての「法然上人書状」3通その他がありました。現在国の重要文化財に指定（昭和40年5月）され京都国立博物館に預けてあります。弟子の親鸞聖人が沢山の文書を残しているのに比較して希少価値があります。発見の切っ掛けは仏師の太田古朴（こぼく）氏が奈良の寺々に仏像をたずね歩き、興善寺に数日間連続で訪問した後に、仏師の“感”で「この仏様に何か特別なものを感じるから是非胎内を調査させて欲しい」と申し出たが住職森田実道上人（現住職森田康友上人の祖父）は最初拒否された。熱心な願いと修理の必要性から「修理を兼ねて」という条件でやっと許可が出て大発見に繋がったのです。

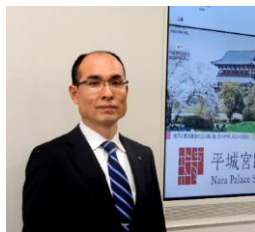
（織田紀久）

平城宮跡歴史文化講座

5月21日13時30分～：平城宮跡資料館講堂
館野和己（大阪府立近つ飛鳥博物館館長）
演題「奈良時代の路」－平城京の大路・小路
（続いて、第21回通常総会を開催）

好評 平城京 歴史講座

中岡正一さん(奈良県平城宮跡事業推進室長)が、1月15日75名に「平城宮跡歴史公園における奈良県の取り組み—朱雀門ひろば、平城宮跡東側及び南側の整備について」と題し、講演。



平城宮跡は、全国3番目の歴史公園で史跡指定100年目です。2020年には大宮通り南側の積水化学工場跡地を県営公園区域として整備が開始されました。また、いざない館

南側に県営の新しい歴史体験学習館を造る計画となっています。外観を正倉院風のランドマークとし、その中で正倉院宝物のレプリカを展示し、実際に見て触れることのできる施設とします。目指すべき公園の姿は「古都奈良の歴史的、文化的景観の中で平城宮跡の保存と活用を通じて奈良時代を今に感じる空間を創出する」が基本理念で、今後も整備を着実に進め国や多様な主体と連携し、平城宮跡歴史公園の魅力アップに繋がる活動を続けます。(編集部)

内藤栄さん(奈良国立博物館前学芸部長)が2月12日78名に「奈良時代の密教美術」と題し講演。



空海が唐より持ち帰ったものを純密(じゅんみつ)、それ以前の密教は雑密(ざうみつ)と呼ばれている。空海は密教に大変興味を持ち紀伊半島や

四国の山岳に入り、修行を行った。また久米寺で「大毘盧遮那経」(大日経)を発見したとされている。806年空海が帰国し日本に伝えたのが密教である。密教はもともと、仏教成立以前から南インドにあった護摩(ホーマー)を焚きまじないをかける信仰で、密教はそれを取り入れた「三密瑜伽行」と言うもの。仏像としては千手観音、十一面観音などの多臂、多面、多眼などの変化観音、さらに忿怒相に特徴づけられる明王などがそれである。二月堂修二会も初期密教の特徴を残している。法具としては三鈷杵。これは金剛杵と総称されるものの一種。心中の煩悩を破り、仏性の姿をあきらかにするもので日光男体山から古式密教法具の遺物が多く発見されている。(編集部)

田中昌弘さん(NPO会員)が、3月12日80名に「東大寺山堺四至図を読む—『神地』の謎」と題し、



講演。図の中央に「神地」という“謎”の施設が記載されており、これをめぐる代表的な説は、①「春日大社そのもの」説。南門を含む回廊に囲まれている地と一致しているが春日大社は

768年で無理がある。②「阿倍氏の社」説 阿倍氏の社に関連した宗教施設。これもデータの乏しい。③「奈良氷室社発祥の地」説。春日大社の由緒書『元要記』には709年に氷室社を造立とあり、また「氷池」「神地」「氷室谷」など氷室関係施設が散在していたことが地図に明示あり、昭和52年には「神地」をコの字形に囲む築地堀跡が発見され氷室社旧境内の内院を囲む堀と思われること。平成20年には水谷神社の東南の山中で氷室跡と思われる3基の土坑を発見。地図を作製した良弁はここに鎮座する都祁の氷室に繋がる神々の場所を「神地」として表した可能性が強い。

(編集部)

次回の平城京 歴史講座(いざない館)

4月9日: 村田裕介(元興寺文化財研究所研究員)

「菅原遺跡の調査概要—奈良時代の円堂遺構について」

5月14日: 田中いづみ(NPO会員)

「東大寺転害門をくぐってみれば」

6月11日: 岡田雅彦(橿原考古学研究所主任研究員)

「考古学から見た唐招提寺発掘された創建期の伽藍」

快適な平城宮跡

2021年度は梅の木の剪定、資料館中庭などで低木の剪定や草刈り、松の木の害虫駆除や桜の木の害虫監視などを実施しました。(緑の保全部会)



1月12日資料館前の梅林で梅の木の剪定

め ぐろ しん ご
目黒新悟

都城発掘調査部平城地区 遺構研究室研究員



1992年新潟県五泉市生まれ。建築に興味を抱いて建築学を専攻し、2014年3月新潟大学卒業、2017年3月東京工業大学大学院修士課程修了、

2018年4月に奈文研に就職し、現在に至っています。

目黒さんは建築史が専門です。建築家を目指して、イタリア・ミラノ工科大学や、ミラノの建築設計事務所経験を経ました。歴史的な街並みで周囲に調和した建築を創る際、古建築に関する知識が必要なことを痛感し、建築史研究に関心を抱いたとのこと。

奈文研では、発掘調査や失われた建物の復元研究などに取り組んでいます。主に携わっている業務として、東大寺七重塔の復元研究や、2021年におこなわれた興福寺東金堂前の発掘調査があります。建物の復元は、発掘調査でみつける痕跡のほか、様々な資料を多面的に分析しています。その一例として、礎石に残された手がかりから、建物の柱径を推定しています（『奈文研紀要2019』）。礎石の上面には、「柱座」と呼ぶ造り出し（突出部）をもつものがあり、柱座の大きさと柱の太さとの関係がわかれば、礎石の柱座径から柱径を推定でき、さらに柱の上にのるさまざまな部材の大きさを考えることができますと言います。

現存する古代建築の礎石の柱座径と柱径との関係进行分析した結果、柱径は礎石の柱座径の6割強～7割強程度で、それらの平均は、約3分の2となることがわかったそうです。つまり、柱径は、礎石の柱座径の3分の2が一つの目安のようです。逆説的に、礎石の柱座径は、柱径の1.5倍程度で造られていたようです。

2021年の興福寺東金堂前の発掘調査では、過去に存在した建物の跡や、平家による南都焼討の被災痕跡を発見することができて、感動したと言います。発掘調査や、その成果にもとづいて失われた建物を復元する復元研究に、目を輝かせていました。

学生時代から、スポーツや趣味も特になく、ひたすら建築に傾倒しているようです。（編集部）

平城宮跡を“楽しむ”人たち

1月24日「木簡の日」ツアーガイドは1月23日の講演会に合わせ19名が参加。先ず平城宮跡資料館で奈文研垣中健志研究員から展示説明の後、第一号木簡出土地の大膳職推定地などを4名がガイドしました。



第一次大極殿院の大極門（南門）ツアーガイド

3月19日～21日第一次大極殿院の大極門（南門）完成記念ツアーガイドに65名が参加。南門の通り抜けと南門の説明、正殿で再現した「幡」のVR映像を覗き込み、奈良時代を彷彿させると感動していました。



（文化・ガイド部会）

平城宮跡クリーン大会【お知らせ】

4月16日9時30分から朱雀門ひろばで参加者の受付をします。マスク着用をお願いしますが、その他は準備しています。（環境保全部会）

<http://www.heijyonet.nara.jp/220416.pdf>

***新規会員* 会員募集**（4月1日現在(50音順）

加藤敦康さん、森下謙三さん、山本義之さんが入会しました。

＜ボランティア活動 入会お申し込み＞

❖個人が支援/活動。年会費 3000円

❖法人が支援/活動。年会費 10000円

編集後記

行楽シーズンを迎え、平城宮跡にもようやく家族連れや観光客が戻ってきました。“三密”のない広い平城宮跡でお弁当を広げたり、散策を楽しんだり、こんな穏やかな光景がこれから先もずっと続いてほしいものです。（Y）